

ヤコブの手紙

新約聖書にはヤコブという人がたくさんいます

12 弟子の中にも 2 人いますが

この手紙を書いたヤコブはイエスの異父兄弟です

このヤコブの背景については

使徒の働きとパウロの手紙から知ることができます

ペテロがエルサレムを皮切りに新しい教会を建て始めた時

イエスの異父兄弟であるヤコブは

エルサレムの最初の教会の素晴らしい指導者になりました

教会員のほとんどはメシアニックジュー

つまりイエスを信じるようになったユダヤ人でした

これが世界で最初の教会ですが

ヤコブが指導者をして二十二年間

この教会は幾つもの試練をくぐり抜けました

飢饉による深刻な貧困がありましたし

イエスを信じるようになったユダヤ人たちは

エルサレムのユダヤ教指導者たちから迫害されていました

そのような中でも

ヤコブはエルサレム教会の大黒柱の様な存在でした

ヤコブはまた悲劇的な殉教を遂げるまで

知恵と勇気をもって人を導き平和を作り出す人でもありました

本書はそのヤコブの知恵に満ちた教えが

短い文章の中に凝縮された力強い書です

この書は普通の手紙のようにイスラエルの外に住む

メシアニックジューへのあいさつから始まります

しかしこれはある特定の教会の具体的な問題に

対処するために書かれたパウロの手紙とは違って

イエスを信じるすべての人のために書かれた

ヤコブの思慮深い知恵が詰まった書です

とはいえヤコブは新しい神学的知識を教えたいのではありません

むしろ身近な生活の問題に踏み込み

それをどう生きるべきかを読者に迫っています

ヤコブの知恵に大きな影響を与えたものが 2 つあります

1 つは神の国の生き方に関するイエスの教え

特に山上の説教でこの書の中で繰り返し引用されています

2 つ目は知恵の書である箴言で特に 1 章から 9 章です

ヤコブは文字通りイエスと共に育ちまた箴言を読みながら育ったので

彼の教えもその影響を色濃く受け同じ言葉や比喩が使われているのです

この書は知恵に満ちた辛口の短い説教集のような書で

隠喩が多用されていて覚えやすい格言もあります

ヤコブは教会にイエスがトラーを一言で言い表したとおり

神を愛し隣人を自分のように愛する生き方をすることによって

真の知恵を身につけなさいと呼びかけているのです

この書のメインセクションは 2 章から 5 章までです

12 の短い教えから成っていて内容は

イエスの教える生き方に真心から従うようにという勧めです

12 の教えは全部そろって一つの教えになるわけではありません

それぞれが独立していて覚えやすいフレーズで終わっています
メインセクションの冒頭で2つの教えが述べられています
1つはえこひいきと愛についてです
ヤコブは人間がいかに関心に自分に利益をもたらす人を特別扱いし
自分にとって得にならない貧しい人をないがしろにするかを暴いています
これはイエスが教えた愛の姿の正反対だとヤコブは言います
次に本当の信仰があるならどうするかあるいはどうしないかを述べます
もし誰かが自分には信仰があると言いながら
貧しい人をないがしろにするならその人の信仰は死んでいます
彼らの行いが彼らの信仰を否定しているのであり
本当の信仰はいつもイエスの教えに従うのだ
とヤコブは言うのです
この書には私たちの言葉の問題に関する
イエスの教えをヤコブが掘り下げている箇所が3か所あります
例えば私たちは人を傷つける言葉を吐き
その同じ口をもって神に賛美を奉げるとい
うありえないことをしでかします
また人を裁いたり悪口を言ったりします
そして自分の利益のために事実を曲げることもあります
人に対してどんな言葉を発するかで
私たちの心の中や価値観がわかります
言葉が私たちの真の人格を明らかにするのです
ヤコブはまた神の国とはイエスの教えどおり
富や社会的地位による差別がなくなる場所だと信じていました
そこでまず富のために傲慢になり
それが永遠に続くと思っている者たちに警告をしています
あなたの富はいつかあなたと同じように腐るとヤコブは言います
それとは対照的に神に従う人々は忍耐と
イエスが再び来てすべてを正すという希望をもって生き
このことは信仰に満ちた祈りを生み出します
この書のこの部分の教えは本当に力強く
すべてを語るにはこのビデオでは時間が足りません
どうぞそのすべてをじっくりと読んでみてください
12の知恵深い教えの前には導入の章があります
ここでも知恵に満ちた教えと格言が次々と記されていて
本書全体のメインテーマをまとめるように構成されています
2章から5章に出てくるキーワードやテーマは
この章で最初に紹介されているのです
ヤコブはまず個人的に知った事実として
人生の厳しさについて述べています
実際彼はこの手紙を書いてまもなく殉教の死を遂げています
しかしヤコブは試練や困難は忍耐を生み
私たちの人格を練ってくれるという意味で
逆説的な贈り物だと信じていました
苦しみのさなかにあっても
神は私たちの中で驚くべきわざを成し遂げてくださり
私たちを欠けのない完全な者としてくださるのです

この欠けのないという言葉はヤコブ書のキーワードで
ヤコブはこれを7回も使っています
聖書におけるヘブル語とギリシャ語のこの言葉は
包括的とか誠実であるという意味をもつ言葉です
これは言動がいつもイエスが教える価値観や信念と一致する
筋の通った生き方をすることを指しています
ヤコブは多くの人が自分の人格の中に大きな矛盾を抱え
不完全な人間として生きていることを知っていました
私たちは自分で認める以上に妥協しながら生きているもので
しかし神は
そんな不完全な人間を完全な者へと造り変えようとしています
それは自分が直面する困難を新たな視点から見るとい
知恵を通して始まるのです
神はこの知恵を神のご性質を疑うことなく信仰によって
求める人に惜しげもなく与えてくださいます
私たちは神の前で自分の卑しさと弱さを悟る時に
恐れるかそれとも信頼するかを選択を迫られます
そして真の知恵は
どんな状況の中でも神は善い方だと信じることを選び取るの
ですからもし貧困の問題で苦しんでいるなら
それは神だけを信頼するようになるための
贈り物だと考えてみなさい
それに富とはつかの間のもので夏の暑さでおれる花のように
消え去っていくものですとヤコブは言っています
ですから困難に陥った時神を恨んではいけません
むしろその状況から
イエスが教えられた神のご性質について学びましょう
つまり神は寛容であり苦しみの中でも
そばにいてくださる方であり信頼に値する方だということ
この父なる神はイエスを通して私たちに新しい命を与え
私たちを新しい人間に造り変え
イエスと同じように神への信頼をもって
試練に直面できるようにして下さったのです
そして新しい人間に変えられて行くためには
神の言葉を聞くだけではなくそれを実行しなくてはいけません
ヤコブはここで神のことばのことを
自由をもたらす完全なトラーと言っています
これは
イエスを通して私たちに与えられた最も重要な律法のことです
私たちが神を愛し隣人を愛するために
イエスは私たちに自由をくれました
それからヤコブはこの愛がどのように表れるかを具体的に示します
愛は親切で優しい言葉で人に語り掛け
貧しい者に仕え真心から神だけに自分をささげます
このように導入の章に記されたキーワードやテーマが
2章から5章にある12の教えの中で
さらに深く掘り下げられていくのです

ヤコブはイエスの知恵と箴言の知恵に深く親しみ
この書において彼自身の知恵を
素晴らしい贈り物として提供してくれました
巧みに記されたこの知恵の書は
イエスに従っていきたく願う者の目を覚ます一撃となります
これがヤコブの手紙です

【要約】

ヤコブはイエスの異父兄弟であり、エルサレムの最初の教会の指導者の一人でした。ヤコブは教会員の大部分がメシアニックジュー（イエスを信じるユダヤ人）であった状況下で、多くの試練と困難に立ち向かいました。彼の知恵と勇気に満ちた教えは、ヤコブの書に詰まっています。ヤコブの教えは、実際の生活の問題に焦点を当てており、イエスの教えや箴言の影響を受けています。また、ヤコブは言葉の力と価値観についても強調しており、愛、信仰、知恵の重要性に言及しています。この手紙は、知恵深い教訓と格言から成る書で、ヤコブは信仰を行動で示し、信仰に基づいた生き方を奨励しています。知恵の書やイエスの教えを引用し、言葉の重要性、神への信頼、試練の価値に焦点を当てています。最終的に、この手紙は読者にイエスの教えを実践し、神を愛し、隣人を愛する生き方を勧めています。